

第3学年 国語科学習指導案

令和4年2月10日
3年1組 28名
授業者 濱田 梨佳

1 単元 読んで感想をもち、つたえ合おう
「ありの行列」(光村図書3下 あおぞら)

2 本単元の目標

- 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。【知(1)カ】
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。【思C(1)オ】
- ◎ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思C(1)カ】
- 一人一人の感じ方の違いに着目し、学習課題に沿って文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。

3 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 <p style="text-align: right;">【知(1)カ】</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。 <p style="text-align: right;">【思C(1)オ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことを、叙述を根拠に文章構成を考えながらまとめ、互いに共有することを通して、一人一人の感じ方や表現に違いがあることに気付いている。 <p style="text-align: right;">【思C(1)カ】</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の見通しと学習課題をもって文章を読み、進んで一人一人の感じ方の違いに着目し、文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

児童はこれまでに「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」などの説明的な文章を読み、形式段落や「はじめ」「中」「おわり」といった意味段落のまとめ、事例の述べ方に注意して文章の内容を捉えることを学習してきた。

本単元では、段落と段落のつながりを捉えて文章の内容を把握した上で感想をもち、それを伝え合う学習活動を行う。これまでの既習事項を生かし、中心となる文やつながりを表す言葉に着目しながら文章の内容を把握し、自分の感想をまとめさせていきたい。

さらに、ここでの学習は4年「きょうみをもったことを中心にしようかいしよう『ウナギのなぞを追って』」の学習へとつながっていくものである。

(2) 児童の実態 (質問紙 令和3年12月 28名実施)

ア	こん虫や生き物への興味 (複数回答あり)		
	イルカ、ねこ、犬、パンダ、コアラ、ペンギン、ハムスター、シャチ、マグロ、チョウ、アリ、ヤモリ、カブトムシ、ダンゴムシ、かなへび、ハチ、ミノムシ、まぼろしの生き物、なし (8人)		
イ	教材文の読み取り (数字は人数)		
	① 形式段落の理解	正答 19	誤答 9
	② はじめ・中・おわりの区切りの理解	どちらも正答 8	おわりが違う 19 どちらも違う 1
	③ 問いの文の理解	正答 22	誤答 3 無答 3
	④ 答えの文の理解	正答 16	誤答 8 (内、正答に近い誤答 5) 無答 4
ウ	感想を書く力 (数字は人数)		
	① 内容について		
	・ 要旨に関する感想 22	・ 研究や観察について 5	・ 要旨とは違うが叙述に即した感想 1
	② 構成力について		
	・ 1段落構成 (～だと思いました。) 18	・ 2段落構成 (なぜかという、もし) 10	

エ 研究テーマに関する質問(4段階評価による学級平均)

- ・授業で、めあてや解決したいことを自分で決めている。(3.7)
- ・授業で、自分の考えに友達考えも取り入れると自分の考えがよりよくなっていくのを感じる。(3.5)
- ・授業で、自分の考えに友達考えも取り入れるとクラス全体の考えがよりよくなっていくのを感じる(3.4)
- ・授業で、新しい考えや解決の仕方をつくりだしている。(3.5)

〈分析及び考察〉

アより、本学級では、生き物に対して興味のある児童がいる一方で、興味が高まっていない児童がいることが分かる。そこで、単元全体を通して児童が生物について興味をもち、感想をもてるような手立てを講じるようにしたい。

イより、形式段落と意味段落の区別ができない児童が三分の一程度いることが分かる。また、問いは文末表現から分かるが、答えに気付いていない児童も三分の一程度いる。段落相互の関係や、着目すべき言葉など丁寧に指導し、内容を十分理解できるようにしたい。

ウより、ほとんどの児童が感想をもつことはできる。しかし、半数以上は、感想を伝えるようにまとめるということができるとはいえないことが分かる。そこで、感想に説得力をもたせるために、感想文の構成を学んだり、根拠をもって感想がもてたりできるような手立てを講じるようにしたい。

エより、ほとんどの児童が学びに向かう意欲を高くもち、友達と関わり合いながら深く考えようとしていることが分かる。学び合いによって、新しい気付きを発見したり、自分やクラスの学びの質が向上したりしたことを振り返りの場で意識的に価値付けていくことで、さらに学びへの意欲を高めていけるようにしたい。

5 指導に当たって

(1) 個別最適な学びを充実させるための教師の手立て

ア 自分の問いをもてるようにするために

- 常設している学年の読書コーナーに生き物に関する本を多く置き、事前に読ませる、読み聞かせをするなどして生き物の生きる知恵に触れることで、生き物に対する感動や驚き、意欲を高める。また、3年生3クラスの担任の感想のモデルを掲示したりタブレット型端末に資料として保存しておいたりすることで、自分の解決したい問いへの答えを明確にする。第1次で単元導入時に担任がモデルを提示し、感想をまとめたいという意欲を高め、読んで感想を伝える本を決めることができるようにする。これにより、単元の学習計画を自ら立て、教材文を詳しく読む必要感をもたせるようにする。

イ 自分の考えをもてるようにするために

- 選択・判断の場面がある学習課題を設定し、児童一人一人が学習に進んで参加できるようにする。その際、自力で選択・判断が難しい児童に対しては、着目する言葉について助言したり、友達と相談させたりする。

ウ 自分の学びを振り返り、新たな問いや学習、日常につなげられるようにするために

- 振り返る活動を設定し、自分の学びや学びの変容に気付かせるようにする。具体的には、振り返りカードで四つの視点(①分かったこと・思ったこと ②できるようになったこと・生かせること ③友達のこと『なるほど』と思ったこと ④もっと考えたいこと・知りたいこと)から、授業の内容に合わせ、特に振り返りたい内容を提示して書かせる。さらに、一人一人の振り返りを全体で共有したり、自分で読み返したりして、新たな自分の問いにつなげられるようにする。

(2) 協働的な学びを充実させるための教師の手立て

エ 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために

- 考えを広げたり深めたりするには、学習過程の「考えの形成」と「共有」を充実させる。そ

ここで、段落相互の関係に着目しながら、理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え、中心となる語や文を見付けたり、互いの考えを比較して違いに気付くことができる学び合いを設定したりする。具体的には、まず教材文で学習し、どの言葉に着目して感想がもてたのかを考えさせ、感じたことの違いに気付かせるようにする。さらに、児童一人一人が選択した科学読み物の感想を共有する場を設定することで、自分の考えの広がりや深まりを実感できるようにする。

(3) 見方・考え方を働かせた学びを充実させるための教師の手立て

オ 言葉による見方・考え方を踏まえた理由や根拠をもてるようにするために

- 段落相互の関係、接続する語句などに着目し、考えとそれを支える理由や事例との関係などを関連付けることで、説明的文章の内容を把握できるようにする。その上で、感想のモデルを比較することにより、根拠をもって説得力のある感想をもつ方策を理解させ、自分が読んで感じたことを叙述と関連付けてまとめることができるようにする。その際、関連付けた叙述等をタブレット型端末で撮影して提示させ相手に分かりやすく伝えられるようにする。

6 学習計画（全8時間） □：本時

		学 習 内 容
第一 次	1	○ 単元の学習内容を知り、自分の課題をもつ。 ① 教師が提示した「生き物のすごいね」のモデルを見て、「科学読み物を読み、心に残ったことを友達に伝えたい」という意欲をもつ。【個別最適ア】 ② どんな生き物のすごいところを友達に伝えたいかを決める。
	2	○ 自分の問いを解決するための学習の見通しを明確にする。【個別最適ア】 ・ 単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。
第二 次	3	○ 相手に分かりやすい感想を書くために、教材「ありの行列」の文章全体の構成を考える。【見・考オ】 ・ 「問い」と「答え」を見付け、文章を「はじめ」「中」「おわり」に分け、構成をつかむ。
	4	○ 感想をもち、「すごい」というところをはっきりさせるために、「中」の論の展開をまとめる。 ・ 各段落の中心となる文を見付け、事例の内容を整理する。【個別最適イ】【見・考オ】
	5	○ 根拠となる叙述に理由を加えて感想をまとめられるようにするために、したことと分かったことなどを読み分けながら、ウィルソンの研究の進め方とありが行列を作る仕組みについてまとめる。【協働的エ】【見・考オ】
	⑥ 本 時	○ 読んだ感想を友達に伝えるために、感想のモデルを比較し、感想のまとめ方について考える。【協働的エ】【見・考オ】
第三 次	7	○ 学習して学んだことを生かして、自分が選んだ生き物に関する本の感想をまとめる。【見・考オ】
	8	○ 感想を交流する。【個別最適ウ】 ① グループに分かれて文章を読み合う。 ② 感想を交流する。 ③ 単元の学習を振り返り、考えたことや気付いたことをまとめる。

7 本時 (6/8)

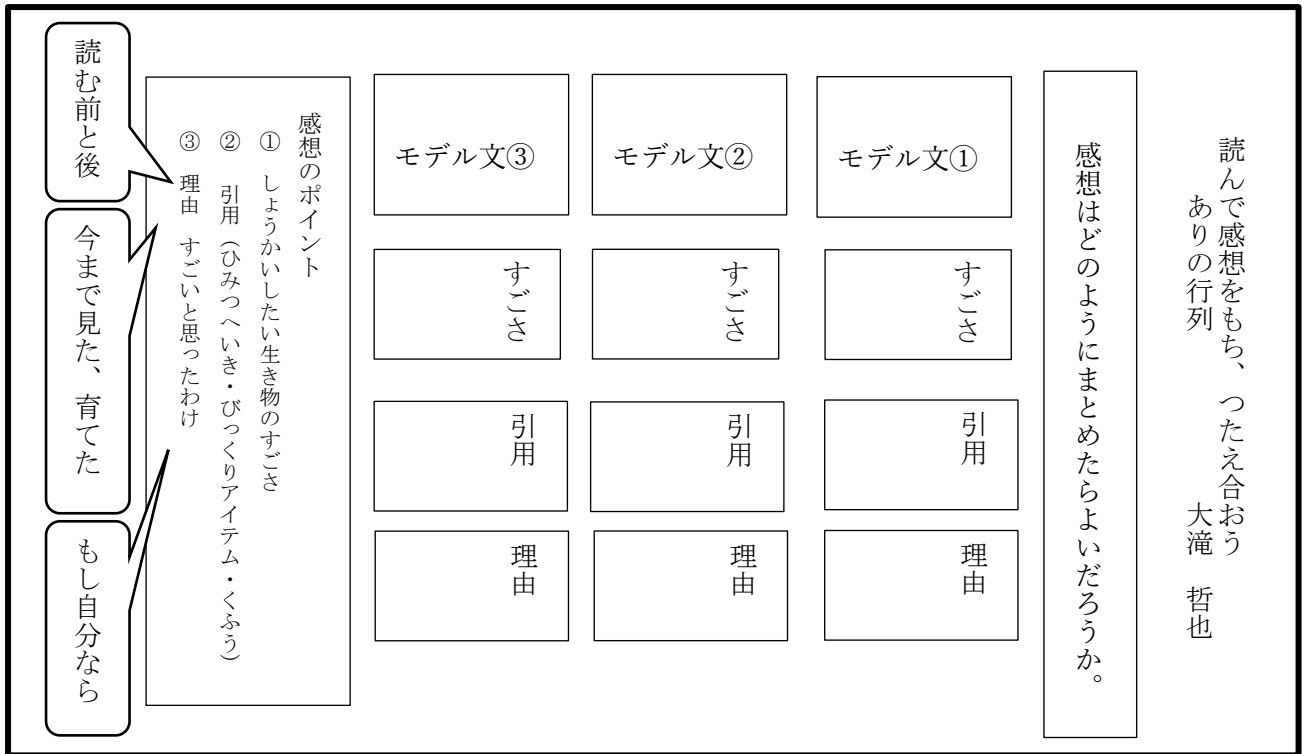
(1) 目標

- 自分で選んだ科学読み物を読んだ感想を友達に伝えるために、教師の感想のモデルを比較し、感想のまとめ方について理解することができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ ※…評価
問いをもつ 10分	1 教師のモデル文を見て、本時のめあてを立てる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">感想はどのようにまとめたらよいだろうか。</div> 2 学習の見通しをもつ <ol style="list-style-type: none"> ① 自分で考える。 ② みんなでまとめを考える。 	教師の具体的な働きかけ ※…評価 ○ 本時のめあてを焦点化するために、先生のモデル「クモ」(3種類)を提示する。 ○ 言葉による見方・考え方を踏まえた理由や根拠をもてるようにするために、感想のモデルを比較することにより、根拠をもって説得力のある感想をもつ方を理解できるようにする。 【見・考オ】 ※ 本時の活動について見通しをもつことができたか。(観察)
学び合い 20分 まとめ 10分	3 教師のモデル文の共通点や相違点について考える <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ このモデルの、この言葉がいい。 ・ 「すごい」じゃない別の表現がある。 ・ モデルを比べたら、違う書き方をしているところがある。 </div> 4 考えたことを全体で話し合い、共有する <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ すごいところを短くまとめる。 ・ 本の中に書いてある言葉を使う。 ・ 理由があると分かりやすい。 </div> 5 本時のまとめをする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 〈感想をまとめるポイント〉 <ol style="list-style-type: none"> ① しょうかいする生き物のすごさ 「〇〇の△△するところ」 ② 引用(ひみつへいき・びっくりアイテム・くふう) ③ 理由→すごいと思ったわけ 読む前と後では～ 今まで育てたり見たときには～、 もし自分だったら～ </div> 6 感想の書き方を確かめる <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありの行列」の感想を途中から書く。 	○ 自分の考えをもてるようにするために、学習課題に対する答えや理由を考えるときに、自分で考える・友達と考えるなど学習方法の複線化を図る。 【個別最適イ】 ○ 個に応じて考えを広げられるようにするために、3つの感想のモデルから2つか3つを比較して考えさせるようにする。 ○ どの言葉に着目したか比較しやすくするために、ワークシートに線を引かせ、3つの感想のモデルの共通点や違う点を明らかにさせる。 ○ 自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにするために、学び合いで互いの考えを比較して違いに気付かせ、共有を充実させるようにする。 【協働的工】 ○ 自分の考えや友達と話したことを発表させ、感想のモデルごとに着目した言葉や意見を分類することで、まとめにつながれるようにする。 ※ 感想のまとめ方について、モデルを比べながら考えることができたか。(観察・発言・記述) ○ 自分たちで考えたという達成感をもたせるために、児童の言葉を使いまとめる。 ○ 自分の感想をより伝わりやすくするために、感想に入れるべき3つのポイントと理由はいろいろな書き方があることについておさえる。 ○ まとめたことを生かせるか確かめるために、「ありの行列」の中で前時に選んでおいた部分に理由を付け加えながらまとめさせる。 ※ 感想のまとめ方を理解し、感想に生かせることができたか。(記述)
ふりかえり 5分	7 本時の学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかえりカードに記入する。 	○ 学びを振り返り、新たな問いや学習、日常につながれるようにするために、振り返りカードで四つの視点から、①分かったこと・思ったことを中心に振り返るようにする。その内容をクラス全体に紹介したり、自分で読み返したりして活用し、新たな課題につながれるようにする。 【個別最適ウ】 ※ 本時について自分なりに考え、次時の活動の見通しをもつことができたか。(記述・発言)

板書計画



本時で提示する感想のモデル

わたしが「クモ」という本の中で心をぐっと引きつけられたのは、「クモのだっぴ」です。

「この姿でからだが固まるのをまちます。」と書いてあって、ぎょっとしました。だっぴのひみつアイテムは「命の糸」です。こんな細い糸に命をあずけるなんて、ひやひやします。クモの糸はどれだけ強いのだろうと思いました。でも、もしわたしなら、だっぴをされていて風がふいたり雨がふったりして、糸から体をはなれないか、毎回はらはらしそうです。今度、クモの巣を見かけたら、だっぴしていないか見てみようと思います。

(もし自分なら)

わたしが「クモ」という本の中ですごいと思ったことは、「クモの巣づくり」です。

本を読む前まで、わたしはクモの巣は、そうじをしていなくて、時間が止まったような所にできる少し不気味なものだと思っていました。この本には「コガネグモは、自分のすがたをわかりにくくするために、網のまんなか、×印の白いもようをつけることがあります。これは、“かくれ帯”とよばれています。」と書かれてあり、はっとしました。巣の美しさにかんげきしました。クモの巣は、生きてるしるしだと思いました。本物を見てみたいです。

(前と後)

わたしが、「クモ」という本の中ですごいと思ったことは、「クモのメスの強さ」です。

わたしのおじいちゃんは、大きなクモを持ってきて、庭にクモの巣を作らせていました。虫をとらせるためと、クモどうしをけんかさせるのを見て楽しむためです。すごく大きくて、わたしは、てっきりオスだと思っていました。でも、メスだったのかもしれないと、この本を読んで思いました。メスグモは、「からだか十円玉ほどもある」そうです。この体の大きさがあるから、子どもが両手を広げたくらいの大きさの巣をつくることも、あみに引っかかったえものを目にもとまらぬ速さで走ってつかまえることも、たくさんたまごをうむこともできるのではないかと思います。

(今までの経験)